

皆さんこんにちは、
システムトレーダーの池田悟です。
今週からこちらのレポートを担当することになりました。
よろしく願いいたします。

来週のアウトルックとシステムトレード的アドバイスの
二つを毎週お届けしたいと思います。

来週のアウトルックでは、ファンダメンタルズ分析、テクニカル分析、
及び過去データからの類推から総合的に、おもにドル円、ユーロ円などの動きを、
中心に分析したいと思います。

システムトレード的アドバイスでは、毎週一つのテーマについて、私なりの考え方を解説
していきたいと思います。

-----1月6日-----

来週のアウトルック (1/6 ~ 1/8)

オバマ新政権の景気対策期待ということで、NYダウが上昇し、それとともにドル売りから
ドル買い戻しに年末年始は流れが変わりました。クリスマス休暇後の薄商いという状況も
手伝ったと思います。ただ、この状況はそれほど長く続かないと考えています。経済指標
の悪化は止まりませんし、ピックスリーの問題も一時的な救済でまだまだ今後どうなるか
わかりません。テクニカル的に見ても、下降トレンドラインは継続中のように思います。
今週中に再びドル売りが再開しても不思議はないように思います。

ユーロ円については、ユーロドルにおける金利差拡大状況から、12月に入ってから上昇し、
131円まで買い戻されましたが、上昇トレンドへの転換までには至っていないように思いま
す。今後については115円から130円あたりまでの、レンジ相場に入るような兆候が少し見
られるように思います。今週は120円から130円のレンジに落ち着いてしまうのではないかと
考えています。

ここ数年、12月中旬から1月の下旬にかけて、大きく円高に進む傾向が何度も見られました。
ところが今年は急落と呼べるような円高の進行はまだ起こっていません。

「円高が進み過ぎているから、今年は起こらない」という考え方もできるかもしれませんが、
円安への反転要因が一通り出尽くした状況から考えてみましても、タイミング的にも
急落の可能性は捨てきれないようにも思います。

過去のデータから推察しますと、1月中旬から下旬にかけてが、ひとつのポイントになりそ
うです。米国の経済指標、債券価格の急落、大企業の決算下方修正などが一つのきっかけ
になってもおかしくないように思います。

システムトレード的アドバイス

「システムトレードで大切なことは」

一般的にシステムトレードといえは、「コンピュータで専用ソフトを使いプログラムを組
んで、高度なテクニカル分析や統計的な分析を行い、過去データを検証して有利な売買手
法を導き出すもの」というようなイメージが強いと思います。

ただ、何がシステムトレードの優位な状況を作っているかといえは、こういった分析方法
ばかりではなく、「ルールの徹底」というところも大きいと思います。

システムトレードに基づいてトレードを行う場合、システムのルールは絶対です。売買サ
インに従って、エントリー、クローズするタイミング、ストップ値の設定、トレード枚数

の設定などはあらかじめ決められたもので、これを守らなければシステムトレードの意味はなくなってしまいます。

最近流行の自動売買ソフトを使ったトレードでは、ルールを破ることは難しくなるよう設計されています。

このルールを徹底するという事は、一般的なトレード（裁量トレード）でも十分に生かすことができます。

たとえば、「20日間の高値、または安値をブレイクしたら、翌日の始値で買い、または売り」というように売買条件を明文化しておいて、クローズはエントリー5日後の始値、ストップ値は1円30銭というようにルールをきちんと決めて、ルールどおりにトレードする。

これだけでも、トレードの成績は向上するように思います。

売買サインを出す条件をいろいろと考えてみたくもなるのですが、最初は一般的に優位だと言われている条件を、書籍から抜粋してみる方法でもよいと思います。

「売買ルールをきちんと作って、そのルール通りにトレードする」という方法がどういう状況を作り出すのか。まずは体験して頂くことが大切だと思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。